

健康通信

慢性閉塞性肺疾患(COPD)ってなに？

問西尾市保健センター(☎57・0661)



COPDは、長年の喫煙が主な原因となり、肺や気管支の組織が壊れてうまく機能しなくなってしまう病気で、別名「たばこ病」「肺の生活習慣病」ともいわれています。

●どんな症状？

初期症状は、せきやたん、息切れなどで、風邪や年齢のせいと思ってしまつこともあります。

進行すると、階段の上り下りなどのちょっとした運動や、入浴、着替え、歯磨きなどの動作でも息切れするようになり、酸素ボンベが手放せなくなる場合があります。

さらに進行すると、低酸素状態となり、じっとしていても息苦しさを感ずるようになります。

●COPDで死亡する人が増えています

日本人の死因の中で10位です。男性に限ると8位となっており、死亡数はこれからも増えていくことが予想されています。

日本には、530万人のCOPD患者がいると推定されていますが、その中で治療を受けているのは、わずかに約22万人に過ぎません。ほとんどの方が放置している状況です。

●原因のほとんどはたばこ、最も効果的な予防・治療法は禁煙

COPD患者の9割以上が喫煙者です。年齢や喫煙歴などにより症状に差はありますが、喫煙者の肺年齢

は、実年齢よりも10〜20歳も高いことが多く、最終的には喫煙者の半数以上がCOPDを発症するといわれています。

肺の機能は、一度壊れてしまうと元には戻りません。治療により症状を和らげ、病状の進行をある程度抑えることができても、思うように呼吸ができないつらさは、一生つきまといまふ。

苦しみを防ぐには、少しでも早い段階から禁煙することが何より重要です。運動などの生活習慣を見直して、肺が弱らないように自己管理していきましょう。

●禁煙は何歳からでも効果あり

何歳から禁煙を始めても、それに応じて肺機能の低下は防げます。身の回りのことが自分でできる、行きたい場所に自分の足で出歩けるような生活を続けるために、今すぐ禁煙して、COPDを遠ざけましょう。

●5月31日はWHOが定める「世界禁煙デー」です

禁煙について考える機会にしてみませんか。

少しでも「たばこをやめてみようかな」と思うなら、ぜひ禁煙に挑戦してください。一定の条件を満たすと、健康保険が適用されます。禁煙治療薬を用いて、医師のサポートを受けながら禁煙することもできます。まずは、禁煙外来のある医療機関に相談してみましょう。

市民病院Q&A



救急車で市民病院に行くと、早く診てもらえるのですか？

救急看護認定看護師 相沢 努



救急車で搬送される患者さんは、基本的には重症度・緊急度が高い方です。救急外来ではそのような患者さんを優先して診察するため、救急車で来る患者さんを早めに診察する傾向があります。しかし最近では、救急車をタクシー代わりに使用したり、軽症でも使用したりするなど、重症度・緊急度が高くないケースが増えています。



当院では、救急外来に来る患者さんの緊急度を判断するトリアージを行っており、受け付けた順番ではなく、患者さんの緊急度に合わせて診察の順番を決定しています。救急車で来院された場合でも、緊急度が高くないと判断された場合は、診察を待っていただくことがあります。

早く診てもらいたいという理由で救急車を使用すると、本当に重症の患者さんの受け入れができなくなることがありますので、救急車の適正な利用をお願いします。一般の方では、救急車を呼ぶかどうかの判断に迷うこともあると思います。愛知県には救急医療情報センター(☎54・1133)など、救急車を呼ぶかどうか相談できる窓口もありますので、迷ったときはぜひ活用してください。

岡市民病院管理課(☎56・3171)